



市史だより

第 299 号

令和 6 年 2 月 1 日

小松市史担当



正月明け早々、午後 4 時 10 分頃に、能登半島に未曾有の地震が発生しました。当地も震度 5 強に見舞われ、道路の陥没や地盤沈下など、少なからずや市内のあちこちで被害を受けました。千年に一度の現象とも言われ、地形的にも地面が隆起するなど大きな変化をもたらしました。

ようやく余震も収まり、学校が再開するなど少しずつ復興の一步を踏み出しています。断水は続き、仮設住宅の完成もまだですが、流れてくる映像を見ると、能登の皆さんが寄り添い、励まし合っている姿に、逆に元氣をもらいます。一日も早い復興を願って、心の支援もその一つ。各々が出来る限りのことをやり続けましょう。

講師 袖吉 正樹氏
(加能地域史研究会副代表)

文書講座

3/10 安宅町文書を読む

湊町安宅の特色を考える

3/20 村鑑^(むらかがみ)帳を読む

村鑑帳より村の様子を見る

3/30 地方^(じかた)文書を読む

縁組願・人別送り状などにより
人々の生活を探る

☆ 日 時 3 月 10 日 (日)

3 月 20 日 (水・祝)

3 月 30 日 (土)

☆ 時 間 午後 2 時から午後 4 時まで

☆ 場 所 小松市民センター 2 階 セミナールーム

☆ 定 員 各講座 50 名 (定員になり次第締切)

☆ 申込み 電話受付のみ (0761-24-5315)

『新修 小松市史 通史編Ⅱ』見どころ



第6章「現代」の第5・6節を紹介する。

第5節は、戦後から現代までの、教育の歩んできた道のりを時系列で、小・中・高校・大学別に詳述する。

戦後、昭和22年、6・3・3・4制の新学校体制が決定した。小学校6ヵ年、中学校3ヵ年、合わせて9ヵ年が義務制となった。後期中等教育は高等学校へ、高等教育は大学へ移行し、新制中学・高校がスタートした。その後、子供の増減や社会のニーズに合わせ、学校の体制は何度も統合、分離を繰り返し、今に至っている。



大学では、小松短期大学が誕生するも、少子化の影響で縮小。そこで、短大と看護学校を吸収し、平成30年、南加賀唯一の四年制大学として、**公立小松大学** (写真上)が開学した。苦難を乗り越えた教育の歩みを紙面から読み取ってほしい。

第6節は、近代から現代に亘る文芸と美術工芸での当市の諸相を取り上げる。文芸では、漢詩・短歌・俳句・川柳・現代詩・小説・随筆の分野に分け、各々の分野で活躍した作家とその作品を詳述する。中でも、小松の文芸創作の中核を

なす『小松文芸』創刊に携わった**森山啓**(写真上)を特筆する。地元での文芸活動に影響を与えた。

美術工芸でも、日本画・洋画・書跡・陶芸・金工・漆工・彫刻の分野に分け、時系列で活躍した作家とその作品を紹介する。この分野には全国的に名を轟かせた作家が多く、芸術院会員の**宮本三郎**、文化勲章受章の**浅蔵五十吉**、人間国宝認定の**徳田八十吉**、**吉田美統**を特筆する。



宮本三郎画「婦女三容」(宮本三郎美術館蔵)

『新修 小松市史 通史編Ⅰ・Ⅱ』

仕様：B5版 上製本 布装丁 貼ケース入り

価格：定価 7,000 円 (税込)

販売所：市史担当事務局・うつのみや・明文堂

<2月のカレンダー> 開室時間 10:00~17:00(火~金)/9:00~17:00(土)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1/28	1/29	1/30	1/31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	3/1	3/2

* は市史担当の事務局は閉室しています。

小松市史担当 (小松市立図書館 2階)

・住所 〒923-0903 小松市丸の内公園町 19 芦城公園内

・TEL 0761(24)5315 ・FAX 0761(22)9763

・E-mail hensansitu@city.komatsu.lg.jp

・URL <https://www.city.komatsu.lg.jp/soshiki/1048/shishitantou/index.html>

